



# あきたの 地域医療通信

2020年12月 第37号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課  
医療人材対策室

## 総合診療医がコロナ禍の日本の医療を救う!?

9月上旬、市立大森病院小野剛院長が政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会の尾身茂会長にお会いした際、次のとおりお話がありました。

「新型コロナウイルス対策に関わる感染症専門医は日本では少なく、多くの医療現場では総合診療医が新型コロナウイルス対応をしていると思われる。地域医療の現場では総合診療医が中心となって対応することを地域住民は期待しているのではないか。総合診療医が新型コロナウイルス感染対応をできることをもっとアピールしてほしい。」

尾身会長の言葉は、平成30年から開始された新専門医制度で新たに19番目の領域として新設された「総合診療」を専攻する若手医師が少ないことを気にかけてのことです。令和2年は全国で9,072名が専攻医登録をし、そのうち2,922名が「内科」プログラムに登録しましたが、「総合診療」プログラムに登録したのは222名と内科の1割にも達していません。そのうち東北は13名であり（秋田県は1名）、プライマリ・ケアへの期待が高まっているにもかかわらず、東北地方では専攻医が特に少ないことが課題となっています。

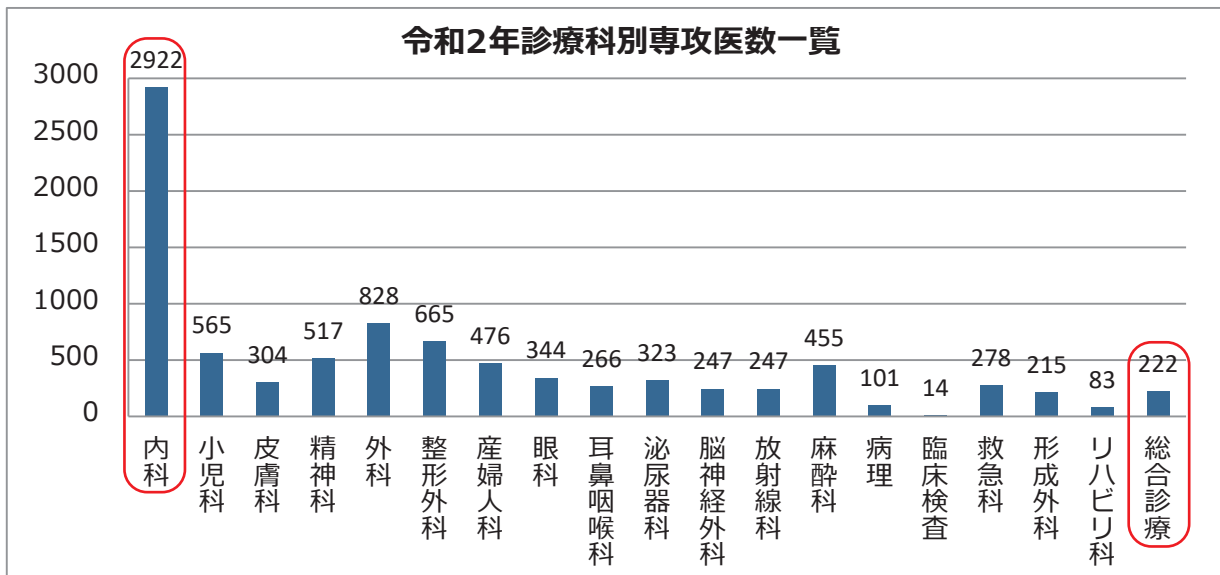
### 総合診療医とは：

患者さんの心身の健康面、家族関係、就労・経済状況などを多角的に診て、その人が望む暮らしを送れるように、あらゆる専門医や協力者と連携しその解決にあたります。

その守備範囲の広さ、対応できるレベルの高さ、コーディネート能力の高さなどが、総合診療の強みです。

（JPCA「総合診療医という選択」HPより抜粋）

令和2年診療科別専攻医数一覧





少しでも多くの若手医師や学生に総合診療医の魅力を伝えるために、9月12日～13日に秋田市で開催された日本プライマリ・ケア連合学会東北ブロック支部学術集会(大会長：秋田厚生医療センター齊藤崇氏)では、「地域に求められるドクターGとは」と題したシンポジウムが行われました。

シンポジストからは、病気だけではなく、患者さんとその家族が抱える複雑な問題を解決しながら、患者さんの意思を尊重したケアを行う総合診療医の姿が伝えられ、地域医療における必要性が発信されました。

本年3月に策定した「秋田県医師確保計画」においても、総合診療医の重要性が高まってきたことから、総合診療を志す若手医師・学生への教育や支援に力を入れることにしています。

## シミュレーション教育にオンラインで参加する新たな日常への期待

新型コロナウイルス感染症の影響により、教育機関ではオンライン授業を余儀なくされましたが、医学部は、様々な実習を通して技術を習得することが必要なため、オンライン授業でどこまで深く伝えられるかが課題の一つです。

秋田大学医学部では全国有数の規模を誇るシミュレーション教育センターを利用して、オンラインでの実習に取り組んでいます。同大学医学教育学講座長谷川仁志教授は5年生の実習班6名と4年生全員の約130名にシミュレーション機器を操作しながら、病歴の取り方、初期対応の仕方などを考える臨床推論のシミュレーション実習をオンラインで行いました。

セミナー会場にはモニター画面撮影専用や、シミュレーター撮影用などzoomに接続した4台のPCを設置し、長谷川教授が患者役、画面向こうの学生が研修医として仮設質問を多用して臨床推論を進めていきます。



受講者はzoomのチャット機能を使うと適宜質問を出すことができ、講師も全員から回答を得ることができるので、双方向のコミュニケーションを図りながら、議論を様々な方向に展開することができます。

対面授業のような実践手技や処置ができないこと、時間が余分にかかることなど幾つかのデメリットもありますが、参加人数と場所を選ばず、臨床に近い形での臨床推論と基本的対応の考え方の経験が容易にチームで共有・トレーニングでき、このようなトレーニングは、手技や処置の経験豊富な医師や医療従事者の生涯教育にはより効果的であると、長谷川教授はこれからの医学教育を見据えています。

**5. 64歳女性、主訴：左胸痛、呼吸困難の患者さん、肺血栓塞栓症、急性冠症候群、他のキラーディージーズを考えながら、救急対応①、検査、診断、初期対応②について検討**



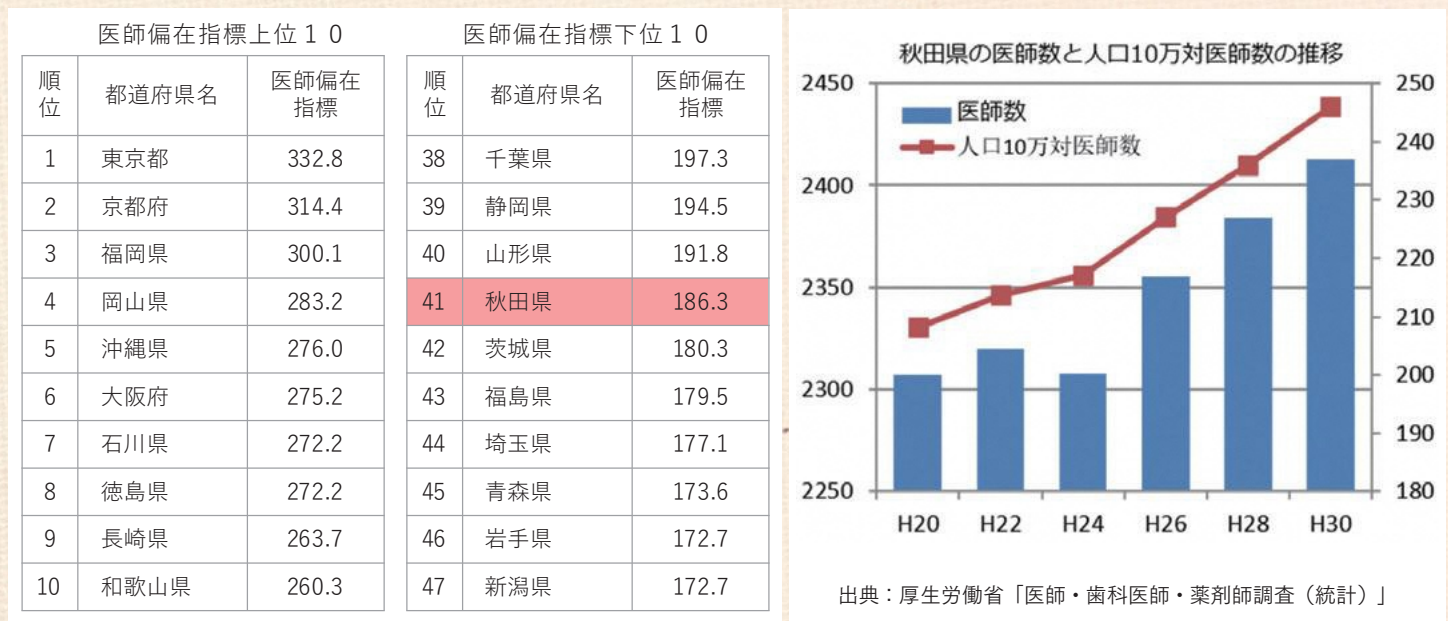
## 秋田県の医師不足の状況

医師の偏在は、地域間と診療科間のそれぞれにおいて、長きにわたり課題とされてきました。

国では、医療従事者の需給に関する検討会医師需給分科会における検討結果を踏まえ、平成30年7月に医療法及び医師法の一部を改正しました。また平成31年2月に厚生労働省が示した医師偏在指標<sup>\*1)</sup>では、本県は全国第41位の医師少数県に位置付けられております。

本県においても、年々医師数は増加しているにもかかわらず、人口10万対医師数では全国平均を下回り、地域住民の高齢化による医療需要の高まりや、医師の働き方改革実現のためには、今後も医師不足が続くことは否めません。

秋田県では本年3月に医師確保計画を策定し、医師少数県から脱することを目標として更なる医師の増加と地域偏在の是正に向け、県内の医療体制を強化すべく様々な取組を進めております。



\*上位3分の1を多数都道府県、下位3分の1を少数都道府県としているため、上位16都道府県、下位16県がそれぞれ多数又は少数に区分されます。

\*1) 医師偏在指標・・・人口10万対医師数をベースに住民の性別・年齢や医師の性別・年齢、患者の流出入状況等を加味して、客観的に医師の充足状況を比較できるようにした指標

## 秋田県の取組

### ○地域医療を担う医師の確保を目指す知事の会の設立

医師少数県のうち、12県（青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県、長野県、静岡県、宮崎県）が参加して「地域医療を担う医師の確保を目指す知事の会」が本年1月に設立されました。



同年7月21日に初回となるWEB会議を開催して、医師不足の解消、偏在是正に向けた提言を決議し、8月7日に厚生労働副大臣に提言書を提出しました。

佐竹知事はWEB会議において「医師確保は、経済原理だけでは解決できないことであり、憲法上の生存権の保障に結び付くものである。知事がまとまって国に対し意見を述べ、医師が全国的にバランスの取れた状況にもっていくことが大切。」と発言しています。



## ○医学生への修学資金貸与事業

県では、将来、県内の公的医療機関等の医師として地域医療に従事しようとする気概と情熱に富んだ医学生に対して、修学に必要な資金を貸与しております。

貸与期間の1.5倍に相当する期間を県内の公的医療機関等で勤務（その期間のうちの2分の1は、知事が指定する公的医療機関等において、医師の業務に従事する必要があります。）すると、返還が免除されます。

返還免除要件の詳細については、次のとおりです。

### ☆返還免除要件

- ①大学を卒業してから1年6カ月以内に医師の免許を取得すること。
- ②医師免許取得後、ただちに秋田県内の公的医療機関等において医師の業務（臨床研修を含む。）に従事すること。
- ③②の医師の業務に従事した期間が修学資金の貸与を受けた期間の1.5倍の期間に達すること。
- ④③の期間のうち、その2分の1の期間（その期間に1年未満の端数がある場合は端数を切り捨てた期間）については、知事が指定する県内の公的医療機関等において医師の業務に従事すること。

※修学資金の貸与を受ける場合、「秋田県地域枠医師等キャリア形成プログラム」の適用を受けることに同意していただく必要があります。

### 【キャリアパスのイメージ図（貸与を受けた期間が6年の場合）】



初期研修修了後、知事指定期間4年間を指定された公的医療機関等で勤務します。

#### ①専門医取得コース

専門医としての研修ならびに県内医療を考慮して、大学各科と県内医療機関、あきた医師総合支援センターが連携します。

#### ②専門医及び学位取得コース

①に加え、希望する時期（4年間）に社会人大学院へ入学、臨床・基礎研究に従事し、学位論文をまとめます。

すべてのコースで、2年間まで国内外留学も可能です。

ただし、留学期間は義務年限にカウントされません。

## ○令和2年度に貸与を行う修学資金

令和2年度は、次の学生を対象とした修学資金の貸与を行っています。各修学資金の概要については、次の表を御覧ください。

- ・秋田大学医学部医学科地域枠の入学者（秋田大学地域枠）
- ・岩手医科大学医学部秋田県地域枠の入学者（岩手医科大学地域枠）
- ・東北医科薬科大学医学部B方式の入学者（東北医科薬科大学枠）
- ・秋田大学医学部医学科2～4年に在学している者（元気枠）



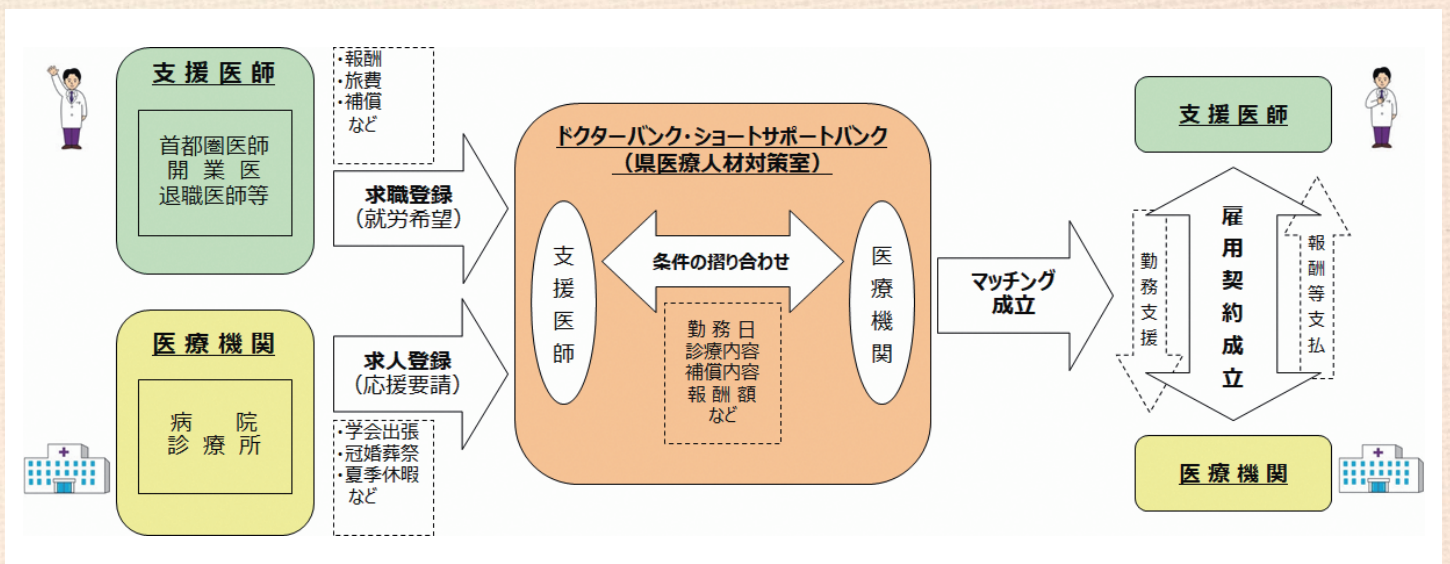
	医 学 生			
	秋田大学地域枠	東北医科薬科大学枠	岩手医科大学地域枠	元気枠
貸与対象者	・秋田大学医学部地域枠入学者	・東北医科薬科大学医学部B方式入学者	・岩手医科大学医学部秋田県地域枠入学者	・秋田大学医学部医学科2～4年生 ※熱意、成績、経済的な観点から大学の推薦を受けた者 ※2年生は学士編入者のみ
募集定員	29名	7名	2名	5名
貸与額	・月額15万円(自宅通学者は10万円) ・入学料相当額28万2千円(1年生のみ)		・月額30万円 ・入学料相当額加算無し	・月額20万円
貸与期間	・大学卒業まで(最長6年間)			・大学卒業まで
返還免除要件				
勤務先	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学卒業後、1年6月以内に医師免許を取得し、その後直ちに、県内の公的医療機関等に勤務</li> <li>・返還免除要件となる勤務期間のうちの半分を、知事が指定する公的医療機関等に勤務</li> <li>・東北医科薬科大学枠の知事指定勤務先は、自治体病院診療所が優先(ただし診療所の勤務にあっては1年を限度とする)</li> </ul>			
診療科	・限定なし			
勤務期間	・貸与期間の1.5倍の期間			
返還	・返還免除要件を満たさない場合、貸与額に年10%の利息を付した額を、1年以内に月賦又は半年賦で返還			
返還猶予	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学、大学院に在学しているとき</li> <li>・災害や疾病、負傷によりやむを得ず医師の業務に従事できないとき</li> </ul>			

## ○ドクターバンク/ショートサポートバンク

県内医療機関の常勤医師としての就職や1日単位の勤務を希望される方に、就職先を斡旋・紹介します。

求職登録された医師の方々には、求人登録をしている病院又は診療所に関する情報の提供、面接の際の病院への同行など、雇用契約に至るまでのお手伝いをします。条件が折り合わない場合でも、引き続き御希望に沿った病院又は診療所を紹介します。現役医師のみならず、定年や育児等で臨床を離れていた方も含め、地域医療に関心のある方を広く募集しています。

### 【イメージ図】





## ○あきた医師総合支援センター

秋田の医療を支えている医師や、これから支えてくれる医師、医学生の皆様を幅広くサポートするために県と秋田大学が連携して平成25年に設立しました。医師としてのキャリア形成を進めながら、意欲的に医療に取り組んでいただけるようお手伝いしますので、お気軽に御相談ください。

HPには秋田県内の専門研修プログラム紹介（紹介動画・プログラム概要）を公開しておりますので、ぜひ御覧ください。

### 主な活動内容

- ① キャリア形成支援
  - ・スキルアップを目的とした最新知識・技術のセミナーを開催します。
- ② ワークライフバランスの推進
  - ・やりがいを持って働きながら、私生活も充実する生き方を選択し、実現するためのお手伝いをします。
  - ・育児情報なども提供します。
- ③ 相談への対応と情報発信
  - ・医師としてのキャリア形成や、御家族の育児から介護まで、幅広い内容の相談をお受けします。
  - ・ホームページやfacebookを利用して、センターの取組を発信します。



## ○あきた女医ネット

女性医師が勤務を継続していくために求められる環境整備・制度の充実は、すべての医師の就労環境の改善につながります。

秋田県では、平成18年度から県・大学・医師会の三者合同による女性医師支援プロジェクト会議を設置し、3年間にわたり種々の活動を展開しました。これらは秋田県医療人GP(地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成プログラム)の活動報告書の一つ「女性医師支援プロジェクト会議とその活動」に詳しく報告されています。

さらに、県医師会では平成20年度から女性医師委員会を立ち上げ、県からの委託事業として女性医師支援の「総合相談窓口」を設置・運営しております。

## 秋田で研修しよう！

臨床研修はプライマリ・ケアの基本的な診療能力を身に付けることを目的としています。秋田県の研修は症例数が豊富で研修医のうちから多くの経験を積むことができるため、医師として必要なコモンディーズをしっかりと身に付けられます。指導医や上級医の丁寧な指導を受け、メディカルスタッフや患者さんが温かい心で接してくれる秋田で研修しませんか？

県内における臨床研修体制の充実・強化のために、県と県内14の臨床研修病院等で組織した秋田県臨床研修協議会は、オール秋田で研修医、指導医、医学生など臨床研修に関わる皆さんへ様々な活動を通してサポートしています。

## ○秋田県オンライン合同病院説明会

6月23・24日、7月3・4日の4回に分けて、県内14臨床研修病院がビデオ会議アプリzoomを使って全体説明や個別相談に応じました。

全国から約100名の申込があり、4回すべてを視聴していただいた学生もいました。

対面式とは違い、気軽に参加できることが学生たちにも高評価でした。直接会って話ができることが一番雰囲気や伝えられることとは思いますが、場所を選ばず参加できる、このスタイルでの開催に今後も取り組んでまいります。

各病院の紹介動画を秋田県臨床研修病院ポータルサイトで公開しております。





## ○病院見学・アクセスサービス

広い秋田県、複数の臨床研修病院を効率的に見学したい医学生（既卒含む）をサポートします！

見学希望日と病院をお知らせいただくと、各病院とスケジュールを調整しますので、見学に集中できます。

旅費も補助します！！ 詳細は秋田県臨床研修病院ポータルサイトを御覧ください。



広い秋田県を効率よく周れる  
**病院見学  
アクセスサービス**

短期間で効率的に複数の臨床研修病院を見学したい医学生（既卒含む）をサポートします！  
見学希望日と病院をお知らせいただくと、スケジュールを調整します。

**対象病院** 秋田県内14臨床研修病院  
秋田大学医学部附属病院、国立秋田総合病院、秋田赤十字病院、秋田厚生医療センター、中通総合病院、大曲市立総合病院、鹿角市立総合センター、由利組合総合病院、平鹿第一病院、秋田県立総合病院、大曲厚生医療センター、市立横手病院、平鹿総合病院、雄勝中央病院

**対象** 県外医学生の場合、旅費の補助があります。

**申込方法** HPの申込フォームよりお申込みください。

申込・問合せ先  
秋田県臨床研修病院支援事業課  
(秋田県庁5階501号室)  
TEL:019-860-1410  
MAIL:ishikakuh@pref.akita.lg.jp

<令和2年度実績>		病院見学スケジュール例				
	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	
宮城県 5年生	移動日	中通総合病院	由利組合総合病院	秋田赤十字病院	大曲厚生医療センター →帰郷	
宿泊先	秋田市	秋田市	秋田市	大仙市		
宿泊先・病院間の移動手段		徒歩	JR	バス→JR	徒歩→JR	
宮城県 5年生	移動日	中通総合病院	秋田厚生医療センター	秋田赤十字病院	大曲厚生医療センター →帰郷	
宿泊先	秋田市	秋田市	秋田市	大仙市		
宿泊先・病院間の移動手段		徒歩	バス	バス→JR	徒歩→JR	
宮城県 5年生	移動日	秋田厚生医療センター	秋田赤十字病院	由利組合総合病院	平鹿総合病院 →帰郷	
宿泊先	秋田市	秋田市	秋田市	横手市		
宿泊先・病院間の移動手段		バス	バス	JR	タクシー→JR	
宮城県 5年生	移動日	秋田赤十字病院	由利組合総合病院	平鹿総合病院 →帰郷		
宿泊先	秋田市	秋田市	横手市			
宿泊先・病院間の移動手段		バス	JR	タクシー→JR		

\* 移動で利用するバスやJRの時間なども見学時間と合わせて調整します。

## ○指導医・研修医支援事業（研修会）

秋田県臨床研修協議会では、例年、各病院から参集いただいた指導医クラスの医師で構成するタスクフォースにより、7月に指導医講習会（1泊2日）、11月には1年目研修医が全員参加してワークショップや症例検討を行う「レジデント・スキルアップキャンプ」（1泊2日）を開催し、オール秋田で指導医・研修医同士の情報交換や交流を深めています。

今年は残念ながら、新型コロナウイルス感染症の影響で指導医講習会は中止しましたが、レジデント・スキルアップキャンプはオンラインで開催しました。



(R1年度開催指導医講習会の様子)



(R1年度開催レジデント・スキルアップキャンプの様子)



## ○臨床研修病院紹介

# 市立角館総合病院

始めに、令和2年は角館が町割りされた元和6年より400年の節目の年となります。武家屋敷出身の小田野直武が、現在の医学生や研修医の年頃に解体新書の図版原画を描き、その後、約180年もの時を経て、昭和28年に待望の町立病院が開設されました。

さて、当院は3年前に桧木内川堤のソメイヨシノが見える場所に移転し、ベースデザインは武家屋敷調でありながらアーバンな佇まいが印象的である建物です。1階には外来や検査部門が集約され、2階には全ての一般病棟や手術室が機能的に配置されています。

救急告示病院や災害拠点病院、基幹型臨床研修病院等の指定を受けており、理念である「患者様中心の医療を提供し、皆様に信頼される病院」を目指すとともに、歴史赴く地域の皆様の医療を支え、愛され、より必要とされる病院となるよう、職員一同力を合わせて努力して参ります。



## 指導医メッセージ

蝦名 寿仁 先生  
(整形外科)



私が角館総合病院に赴任したのは21年前です。当時、常勤医師は現在の2倍近くおり、診療科も多く、様々な疾患に対し治療を行っておりました。

しかし、診療科の縮小などもあり、今は入院治療が行えない疾患もあるのが実情です。そのような当院の研修プロ

グラムの特徴は、常勤医師は少ないながら他科との連携が取れており、様々な手技において、診療科の垣根を越えた実習ができる点や、研修医が少ないため指導に当たる医師からマンツーマンで丁寧に指導が受けられる点がメリットです。

また、当院だけでは全科の研修ができないため、秋田大学医学部附属病院や市立秋田総合病院、岩手医科大学病院などの他院での研修を行えることも利点です。

みちのくの小京都「角館の武家屋敷」、日本一深い湖「田沢湖」、秘湯「乳頭温泉郷」、四季折々の自然に恵まれた、ここ仙北市で研修を行ってみませんか。

## 研修医メッセージ



竹内 健二 先生  
(東京大学出身)

初期研修開始から半年が経ち、充実した毎日を送っています。私は秋田県に

ゆかりはなかったのですが、見学に訪れた際、院内の雰囲気がとても良くこの病院での研修を希望しました。当院の医局は一つで、上級医との垣根も低く、分からないことがあれば何でも聞ける環境です。

また、病院の規模が大きくなって研修医の数が少ないた

め、手技がある場合は研修している科に関わらず声をかけてもらえ、経験を積むことが出来ます。

当直について1年目は任意となっていますが、春から上級医と一緒にいらして頂いていて、大変勉強になっています。

角館は自然豊かで、業務後においしい食事やお酒が楽しめるなどリフレッシュすることもでき、研修には最適な環境だと思っています。

ご興味のある方は是非、一度見学にお越しください。お待ちしております。



## … お問い合わせ先 …

秋田県健康福祉部医務薬事課 医療人材対策室 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号  
E-mail : ishikakuho@pref.akita.lg.jp Tel. 018-860-1410